

## 小麦の成熟予測と今後の管理について

令和8年5月29日  
上田農業農村支援センター

### 1 小麦の生育状況

- (1) 本年は越冬後の1月下旬、2月上旬に低温且つ少雨であったため生育が緩慢でした。しかし、2月下旬には最高気温 20℃を超えるほど温暖になり、3月下旬～4月中旬も同様に温暖に推移したことから、生育が一気に前進しました。
- (2) 4月下旬、5月上旬においては、降雨が多く、気温も平年並みと比較的涼しくなったことから、生育が一時期停滞しました。
- (3) 4月24日に降霜ありましたが、上田管内の小麦が大幅に減収するほどの凍霜害はありませんでした。

### 2 小麦の品種別成熟期と刈取時期

- (1) 麦の登熟積算気温は、**しろゆたか、しゅんようは 833℃(シラネコムギで代替)**としました。(令和2年度普及に移す農業技術「大小麦の登熟積算気温を用いた成熟期予測技術」の県平均値)
- (2) **上田アメダスポイント(標高 502m)の気象データ**を用い、標高による気温減率を100mで0.55℃とし、出穂日から登熟積算気温に達する日をもとめています。なお、気象データは、**5月31日までは実測値、以降は平年値を用いました**。平年値は公表された値(統計期間 1991～2020年)を用いています。

表1 しろゆたか、しゅんよう

生産地と標高	上塩尻 425m	塩田(柳沢) 478m	西部(営農セ) 455m	北御牧(ライス) 723m
出穂期	4月26日	5月4日	5月6日	5月7日
成熟期	6月14日	6月20日	6月22日	6月26日
刈始め	6月17日	6月23日	6月25日	6月29日

※ 出穂期は各生産地における代表される日にちを記載しています。播種日等により成熟期は前後しますので、上記を参考にして刈取り日を決定的ください。

※ 収穫開始期は成熟期後3日としました。

### 3 今後の管理

- (1) 上記、成熟期の予測日は今後の天候次第で前後することがありますが、目安として収穫から乾燥調製までの準備を早めに行ってください。
- (2) **成熟期は麦の生育状況や今後の気象状況で前後します。** 湿害を受けて穂数が少ない圃場や根の生育の劣る圃場、極端にやせた圃場では、予想より成熟が早まる可能性があります。
- (3) 早刈りや刈り遅れ、高水分麦の収穫は品質を低下させます。圃場の生育状況に注意いただき、適期収穫チャートを参考に、圃場での成熟状況を確認し、適期収穫をお願いします。
- (4) ほ場により生育状況が異なりますので、穀粒の外観(90%以上の粒が褐変)や穀粒水分(20~30%程度)を確認のうえ収穫を開始してください。
- (5) 梅雨を間近にしているため、今後降雨があった場合は圃場に滞水しないよう、**刈取り適期に刈取り開始できるよう、排水対策を怠りなく進めてください。**
- (6) 収穫時に降雨が予想される場合は、収穫適期を待つことなく刈り取りを開始してください。
- (7) 生育ムラが目立つ圃場があります。そのため成熟ムラも予想され、収穫時期の判断が難しい圃場もあると思われます。
  - ➡ どの圃場から刈り取りを開始するか？
  - ➡ どの順番で刈り取りを進めるのか？ と言った話し合いをこまめに行い、収穫作業に臨んでいただければと思います。

#### 【刈り取り順番】

- 1 成熟が概ね均一な圃場から収穫する。  
その後に成熟が不均一な圃場を収穫する
- 2 成熟が不均一な圃場は、成熟した部分の割合が多い圃場から収穫する
- 3 最後に成熟が一番遅れている圃場を収穫する

- (1) 登熟ムラにより未熟粒が混入し穀粒水分のばらつきが懸念されます。乾燥開始時には通風乾燥を行い、水分の均質化を図ったうえで火力乾燥を行ってください。
- (2) 上塩尻の気象観測装置から推定した赤かび病感染好適条件が**5月20日**に出現しています。発病があるほ場では、適期収穫に努めて、収穫後に感染が広がらないように注意しましょう。収穫が遅れると、感染が広がるリスクが非常に高まります。

**ほ場を回っていただき、発生がみられた場合には赤かび病が疑われる穂がありましたら、JAや支援センターまでご連絡ください。**

**また、収穫期の降雨により発病が助長される可能性があるため、適期収穫を心掛け、収穫後は速やかに乾燥作業を行ってください。**